

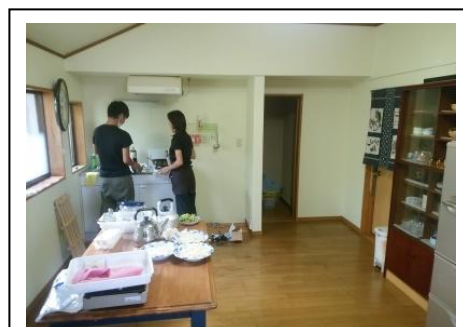
平成27年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	困難を有する若者が就労につながることを支援する場所づくり
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人ぱーむぼいす (0269-67-0415)
事業区分	(2)保健、医療、福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	960,000円 (うち支援金: 576,000円)

事業内容

地域の若年者を対象にした就労準備支援を行う「ほっふ・すてっふJOBcollege」の整備

- 生活自立を目指した調理実習、自炊練習を行うキッチン整備



【自炊練習】

【目標・ねらい】

- 年間開校日数 200日以上
- 自炊訓練・調理実習実施 200日以上
- 研修生 3人～6人
- 地域や関係機関との連携

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- 毎週5日開校している。年間200日以上のペース。
- 生活自立を目標に自炊練習や調理実習を実施。個別のプログラムで必要に応じるため200日以上は困難であるが、研修生のニーズに応じたオーダーメイドの支援の幅が広がった。
- 現在3名の在籍者。一人一人のペースで個別のプログラムが進行中。(アルバイト1名、所内内職実習2名、ハローワーク求職者登録2名)
- 中野市福祉課、市町村の保健師、民生委員、若者サポートステーション、ハローワーク、受け入れ先業、農業者など

※自己評価【B】

【理由】

・個別のニーズに応じたプログラムを展開しているため、全員に毎日、自炊練習が必要とはいえず稼働率は目標を下回る。しかし、自立能力の向上に当たっては効果的な成果を生んでいる。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- 地域の生活支援センター「まいさぼ」事業との連携を広め、就労準備支援の担い手として立てるよう活動を進めていく。
- 個別のニーズに応じて、就労自立だけではなくそれを支える生活自立のプログラムとして継続して活用していく。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある